

第 1 1 回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名 (小石委員)

教 育 長) それでは、審議に入ります。日程第 1、報告第 3 号「令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題とします。提案説明を求めます。

学校教育課長) <議案資料に基づき概略説明>

教 育 長) 毎年このテストを行っており、それが芦屋のいろいろな面に反映されなくてはならないと思います。特に昨年から傾向的に変わったところがありますか。

学校教育課長) 大きくは変わっておりませんが、どの教科も最後まで回答しようと努力するところが見られることから、とても意欲的に取り組んでいると言えます。しかし、実際は全ての教科において、自分の考えを正確に書いて表現するところは、引き続きの課題だと感じておりますので、その部分は改善していきたいと思えます。

教 育 長) わかりました。

説明が終わりました。質疑はございませんか。

越 野 委 員) 受験者数ですが、昨年テストを受けていない子は、小学生は 5 人、中学生は 1 8 人でしたが、今年は小学生も中学生も大分増えているのですが、なぜでしょうか。

学校教育課長) 受験者数につきましては、不登校の生徒も含めておりますので、残念ながら増えているところもあります。

越 野 委 員) 小学校でも不登校が増えているということですか。

学校教育部主幹) はい。高学年で増えてきている傾向があります。

教 育 長) この在籍者は、受験対象者ということですか。

学校教育部主幹) そうです。

小 石 委 員) この問題については、文部科学省はどのような評価をしているのでしょうか。全て教育目標なので、全部できないといけないと思って出題しているのでしょうか。

正答率が全体で1%台しかなく、芦屋市でも2%台ぐらいの問題を出題して、結果を出しているのであれば、それは問題ではないかと思いました。

学校教育課長) 文部科学省はこの結果を受けて、どう評価されるかはわかりません。英語の先生に話を聞いたところ、ここまで正確に書くのは難しいですが、自分の言葉で考えたことを話したり、書けるようになるということは、これから目指すところですので、この結果を授業に役立てていきたいと思っているとのことでした。

小 石 委 員) この問題に限らず、ほかの問題でも正答率の低いものを見ると、この結果をうけて、現場は学力向上のために頑張っしてほしいという視点から、このような難しい問題を出題しているのですか。それとも、問題のほうが少し難しかったのでしょうか。文部科学省の意図がわかりかねます。

学校教育部長) 正確な意図はわかりかねますので、想像になりますが、今の学力に対して、最近はOECDの中でどうであったかということも取り上げられることが多くなっております。日本国内での標準にとどまらず、世界で求められるような水準という考え

方を日本の子どもたちにも持ってほしいという意図があるのではないかと感じます。

小石委員) それでは、例えば全国的に正答率が低いものがあるとする
と、その部分を授業改善するよう求めてきているということ
でしょうか。

学校教育部長) 授業改善は求められていると思います。しかし、その点数
にどこまで近づけてほしいと思っているのかはわかりませんが、
そのようなことに目を向けた授業づくりや改善をしていくとい
う部分はあると思います。

小石委員) わかりました。

まずは、芦屋市内の学校や子どもの中で、どれぐらいの差が
あり、どの部分が特に弱いのかという分析が大事だと思いま
した。そして、このようなグループの子どもたちには、どのよ
うに接したらよいのか、どのような指導が必要なのかというこ
とを各学校において、具体的な対処方法を考えることが大切にな
ってくると思います。特に学校によって違うと思いますので、
そのあたりを工夫して、対応していただきたいと思います。

このテストは、そのために実施しているものですので、我々
の中でも工夫をしないといけないテーマだと思っております。

教 育 長) 委員ご指摘のとおり、学校ごとの勝ち負けではなく、この
結果を1つの判断材料として、つまずいている箇所を分析して
いただきたいと思います。PDCAサイクルの評価の中で、保
護者に対して、学校全体としての頑張っている点と課題点を示
していただきたいと思います。子どもたちの学力をさらに伸ば
し、苦手を克服するための工夫が必要となります。兵庫県では

この結果を分析し、研修会を行っておりますので、ぜひ活用していただきたいと思います。

各学校の校長先生には、調査結果がすべてということではありませんが、やはり大事な要素ですので、この結果をもとにヒアリング等を行い、今後の芦屋の教育に反映していきたいと考えております。

木村委員) 中学校の特徴的な問題の英語に、ピクトグラムに対して25字以上の英語の文章を書く問題があるのですが、私はこの問題の正解と不正解の判断基準がよくわかりません。

25字以上で論理的にも文法的にも問題がなく、つづりも完璧な英語の文章を書くことはかなり難しいので、必然的に正答率は下がると思います。ですので、この問題は正解したか間違ったかが重要ではなく、この記述の中で、どの部分が正解していて、どの部分が足りなかったのかを子どもたちにフィードバックすることが大切だと思いますが、いかがでしょうか。

学校教育課長) やったことに対しての確かめは行っております。この問題を正解するためには、3つの条件が必要になります。1つ目の条件はどちらか1つを選んでいるか、2つ目はその選んだ理由を2つの案に触れながら書いているか、3つ目は25字以上で答えることができているかです。この3つの条件が当てはまった場合のみ正解となりますので、委員がおっしゃるとおり判断が難しいところでございます。

木村委員) 解答用紙は返却するのですか。

学校教育課長) 私は専門ではないので、詳しいことはわかりかねるのですが、解説の資料やポイントなどは教師が持っていますので、足

りていない部分や正答率が低い問題は取り出して授業において、解説を行っていると思います。

教 育 長) 高校受験や大学受験の模擬テストを受けたときは、答案用紙が返却されたあと、自分はどのような勘違いをされていて、どこを間違えたのかを確認することが、能力を高める上でとても大事なことでした。その点、この問題では全体的なパターンはわかりますが、1問1問についてはわからないことがありますね。

学校教育課長) そうですね。

木 村 委 員) そのような意味では、指導するのが難しい問題なのかもしれませんね。

学校教育部長) そうですね。個々の子どもに対する指導に直接生かすにくい形式になっておりますが、学校や教育委員会では、大きな部分として苦手箇所を把握できるので、授業改善に役立てております。

木 村 委 員) わかりました。しかし、今回の問題では、文法的に間違っていたら不正解になってしまいますが、日常会話では文法が正確でなくても十分通じるということもありますね。そして、最近文法よりも、日常会話ができる力の方が求められていると思います。

浅 井 委 員) この問題は学校のテストの場合は、部分点などをつけることができるので大丈夫だと思いますが、今回の場合は、部分点などはないと思うので、まずいかなと思いました。

木 村 委 員) 話すことについては、生徒が1人ずつ話した音声ファイルを文部科学省に送るのですか。

学校教育課長) そうです。

木村委員) 採点はどのように行っているのでしょうか。

学校教育部長) すいません。わかりかねます。国語の問題では、非常に時間がかかりますが、1人1人の回答を人間が採点していますので、すべての音声データを聞いているのかもしれませんが。

木村委員) 大量の音声ファイルを採点する際に、別の子のデータと間違えないように採点を行うのは大変な作業ですね。

学校教育部長) そのような面では「話す」の試験については、検討の余地が十分あると思います。今回のテストが不十分な点もあると認識されてか、点数からは外して別にまとめられているところだと思えます。

学校教育課長) 話すことについては、英語科の先生に話をうかがったところ、He comes to school by bus. という文の場合、語尾のby busを強調して言わなくてはいけないとのことでした。by busの部分が強調されていなかった場合は、部分点になってしまうとのことでした。ですので、日ごろからそのような指導を行っているとのことでした。

英語科の先生は、実践できている子がどの程度いるのかということに興味を持っており、今回のテストの結果を受けて、今後の授業に生かすという点では、有効なテスト結果の活用方法だと思っております。

木村委員) by busだけではだめなのですか。

学校教育課長) by busだけでは、部分点になってしまいます。

木村委員) 普通の会話の場合は、by busで通じるとは思いますが、テストでは部分点になってしまうのですか。

学校教育課長) Howから始まっている文ですので、定型の文法になっているのだと思います。

小石委員) この間、参加させていただいた研修会では、講師の先生が地図を見て「this way, this way」と言っても通じるとおっしゃっていました。

教育長) それでは、県の研修会に行かれる先生方は、よく聞いてきてください。

浅井委員) 中学校の国語ですが、手紙の封筒の書き方の問題があります。芦屋市の正答率が半分ぐらいしかなく、全国よりも少し低かったと思います。

2年前の調査でも、小学校の問題として出題がありましたが、このときも正答率が非常に低かったことを覚えています。平成24年度は20%台だったのが、今回は41.3%と上がってきております。そのようなことについての指導はされたのでしょうか。

今はメールがあるので、手紙を書くことにあまり馴染みがないと思いますが、常識的な部分として必要ではありますし、絶対なくならないものだと思いますから、その辺を再度指導していただけたら、すぐに改善できると思いました。

学校教育課長) 委員のおっしゃるとおり、経験値が割と少ないとはいえ、生活において必要なものです。また、国語だけでなく全教科において解けていないところは学校でしっかりとフィードバックしておりますので、今回も伝えていこうと思います。

浅井委員) よろしくをお願いします。

木村委員) 昔は小学校ぐらいの時に、友達に年賀状などを何通か出し

ていましたが、今はLINEなどでのメッセージが主流になっているので、手紙を書く機会が減っているのでしょうかね。

越 野 委 員) 小学校も中学校も学力は高いのですが、平成28年度の小学校のときには勉強が好きだった子も、中学校になると数値が少し下がっているところが残念だと思いました。やはり勉強が好きというところは、学ぶ意欲という面においても、基本となる部分だと思います。勉強がそんなに好きではないが学力が高いという状況の場合、テストのためだけの勉強になっているのではないかと少し気になります。

もし、テストのためだけの勉強になってしまっていたら、今後、学んだことを実際の生活に生かしていくことができるのか心配になります。小学校のときは勉強が好きで、授業が楽しめていたが、中学校になって授業内容が難しくり、あまり楽しくなくなってきたのなら、小学校で楽しめていた部分を、小学校と中学校で授業内容の交流や研究を行う中で、授業改善なども一緒に研究していってもらえるといいと思います。

教 育 長) 芦屋の場合は、中学校の母集団と小学校の母集団に若干の差があります。そのような中において、中学校は学力の面でも頑張ってくれていると思っておりますが、それに安住することなく、委員がおっしゃられた点についても受けとめてやっていかなくてははいけませんね。

学校教育課長) やはり生活に生かせるような單元では、子どもたちの学ぶ意欲が変わってきます。それは中学校でも同様に、その点に関しては、かなり意識して取り組んでおりますので、それをさらに継続していけたらと思います。

小石委員) ここでは将来役に立つかという聞き方をしていますが、みんな将来役に立つから一生懸命勉強しているわけですので、聞き方を変えた方がいいかもしれませんね。ここでいう将来に役立つというのが、入試に役に立つというレベルの話になると、意味が変わってきてしまいます。

そして、授業がわかるがおもしろくないというのと、少しわからないがおもしろいというのでは、後者の方が、将来性があるといわれておりますので、とても難しいことですが、今以上にみんなが楽しめる授業を作っていただきたいと思いました。

学校教育課長) 両委員のおっしゃるとおりです。ありがとうございます。

小石委員) 小学校では、学校の決まりを守るという項目の数値がすごく低くなっております。学校の決まりとは、具体的にどのようなものがあり、なぜこんなに数値が低くなっているのでしょうか。

越野委員) 私が思うに、これは子どもたちが素直なのではないかと思えます。廊下を走ってはいけないと先生に言われたが、自分は走ってしまったということや、授業中にしゃべらないと言われているのに、ちょっとしゃべってしまったことなどを含んでいるのではないのでしょうか。中学生はそこまでは入れていないので、あまり数値が高くなっていないのだと思いました。

小石委員) わかりました。

学校教育課長) やはり個人のとらえ方も違うからだと思えます。

浅井委員) 13ページ項目21の読書が好きかという問いでは、芦屋市だけでなく、全国的に見ても小学生より中学生の方が数値が低くなっており、少し残念だと感じました。これは難しい本を

読み出したりして、なかなか一概に楽しいとは言えないというのが原因の1つなのではないでしょうか。

学校教育課長) 難しい本を読んでいるから楽しくないということではないとは思いますが、ここはやや課題だと思っております。

浅井委員) 小学生が本好きになっているので、少し残念だと思いました。項目22の新聞をほぼ毎日読んでいるのですが、調査でも、新聞を読んでいる子どもの正答率は全ての教科において平均を上回っていると出ておりました。ネットのニュースもありますが、新聞はいろいろな記事が目に入るし、興味のなかったことにも目を向ける機会になると思います。そして、何よりも繰り返し読めることが利点だと思っておりますので、新聞をとらない御家庭も増えてはおりますが、学校では、主体的・対話的で深い学びに新聞を生かしていただきたいと思います。

木村委員) 中学生に読書に関するアンケート調査を行い、原因を調べた方がいいと思います。

小石委員) 読むことの楽しさが身につくことが大事なわけですので、興味がなくなった原因を把握し、指導に役立てていけるといいと思います。

木村委員) 原因としては、勉強で忙しいから読む暇がない、ほかに娯楽があるから読まなくなったということも考えられますね。

小石委員) そうですね。本当は本を読みたいが勉強をしないといけないので、読むことができなくなってしまったというのと、本に関心がないためというのでは、意味が違ってきますね。

木村委員) アンケートを実施するか、ホームルームなどで話し合い、その声を先生に集めてもらうなど、どうしたらいいのかという

方針も立つと思うので、原因を探る努力はしていただきたいと思います。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

以上、報告第3号「令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について」の報告を受けたものといたします。

教 育 長) 次に、報告第4号「令和元年度「秋の公民館講座」等の開催について」を議題とします。提案説明を求めます。

公 民 館 長) <議案資料に基づき概略説明>

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

越 野 委 員) 2 ページの一覧表の一番下に記載されている講座以外は、以前より行っていた講座ですか。この講座はシリーズ化しているのでしょうか。

公 民 館 長) 一覧表の上のほうは前からやっている講座になっており、下から3つ目以降は比較的新しい講座となっております。

前からやっている講座につきましては、大きく内容を変えてしまうと、定着している受講者が困惑してしまうこともありますので、少しずつ変えていっております。

越 野 委 員) 定着しておられる受講者の方も大事ですが、市民講座は幅広い方に興味を持ってもらうことが大事だと思いますので、新しいものも毎年少しずつ加えていただけた方が、いろいろな方に来ていただけるようになるのではないかなと思います。

教 育 長) 講師の選定は委託業者がやっているのですか。

公 民 館 長) そうです。

教 育 長) 昨年のサイエンス講座の応募状況はどうだったのでしょうか

か。

公 民 館 長) 昨年と比較的にたくさん応募がありましたが、今年は内容がとても専門的になっていることもあり、あまり応募がない状況となっております。

教 育 長) わかりました。

公 民 館 長) 昨年は東京から講師をお呼びしました。その際に教育委員会でご意見をいただいた旅費の件ですが、確認したところ、旅費は講師の方が辞退されています。社会貢献等の関係で、大学から補助が出ているのかもしれませんが。

教 育 長) わかりました。

公 民 館 長) サイエンス講座につきましては、中学生ぐらいの方がよく来られます。前回も中学生ぐらいの方が来られました。

本来は土曜日に講座を行うことができればよかったですのですが、講師の日程の関係等で、金曜日になってしまったので、学生の方が参加することが難しくなっております。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

以上、報告第4号「令和元年度「秋の公民館講座」等の開催について」の報告を受けたものといたします。

教 育 長) 閉会宣言